



巻頭企画

安全性向上・経費削減
に効果!

実践! 省燃費運転

燃料価格が3年ほど前から上昇傾向にあり、運送事業者の経営環境にも影響を与えています。燃料価格上昇対策としてまずあげられるのが、省燃費運転です。燃料消費を抑えることで経費削減につながるほか、安全性向上にも効果をもたらします。そこで今回は、省燃費運転活動の効果とポイントを紹介。改めて自社の取り組みを振り返り、改善につなげましょう。

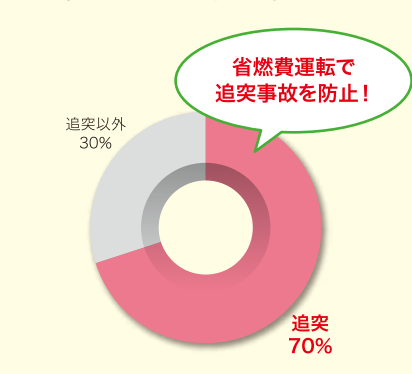
I. 省燃費運転活動のねらい

ねらい1 安全性向上!

トラックでの人身事故の約半数は追突事故です(一般・高速道を含む)。さらに高速道における追突事故は、事故全体の約70%を占めています[グラフ]。万一事故を起こせば、尊い命を奪うだけでなく、会社の信用失墜、賠償金の支払い、企業イメージの悪化など影響は計り知れません。よって運送業界では、追突事故の防止が重要課題になっています。

省燃費運転は、急発進・急加速を避け周囲の交通状況を把握しながら行うため、追突事故の防止にも貢献します。また事故を未然に防止できれば、事故そのものだけでなく、その処理にかかるさまざまな損失や費用の削減にもつながります。

[グラフ] 高速道での人身事故は約70%が追突!



出典:公益社団法人 全日本トラック協会「できることから始めよう!トラック追突事故防止マニュアル ~追突事故撲滅キット~(研修資料)平成28年データ版(平成29年7月)」

ねらい2 経費削減!

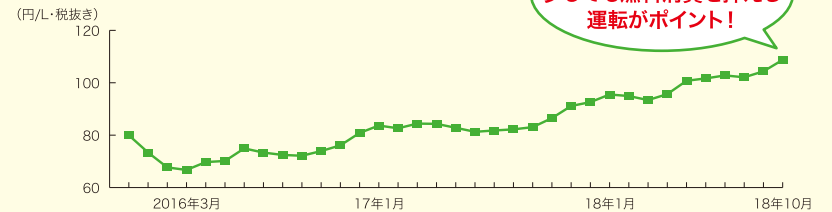
①「燃料・油脂費」の削減

燃料価格(軽油のローリー価格)が上昇しており[グラフ]、運送事業者の経営環境にとって逆風になっています。

経営面において「燃料・油脂費」は、人件費に次いで

占める割合の大きい経費[グラフ2]です。このまま燃料価格の上昇が続けば、経営に悪影響を及ぼしかねません。よって、同経費を削減していくには、燃料消費を抑えられる「省燃費運転の実践」がひとつのポイントになるでしょう。

[グラフ1] 高騰が続く燃料価格の推移(ローリー価格)



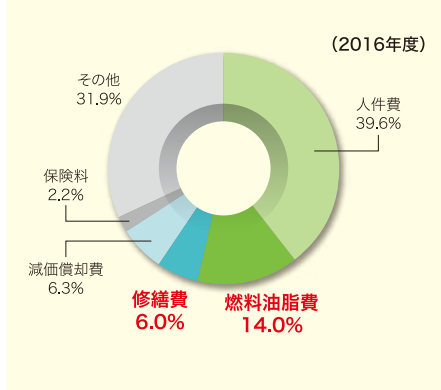
出典:公益社団法人 全日本トラック協会「軽油価格推移表(全土協調べ)」

②「修繕費」の削減

省燃費運転は、急発進・急加速しない運転が基本になります。それにより、エンジンの負荷が全般的に低く抑えられ、結果としてエンジンの傷みの軽減や、タイヤ、ブレーキライニングなどの消耗も抑えることができます。

このように省燃費運転は、部品の維持に効果をもたらすし、車両の「修繕費」の削減にも貢献するのです。

[グラフ2] 経営面で燃料・油脂費、修繕費が占めるウエート



出典:公益社団法人 全日本トラック協会「経営分析報告書-平成28年度決算版-(平成30年3月)」、「エコドライブ推進マニュアル」

省燃費運転の効果

- ① 追突事故などを防止し、**安全性向上を実現!**
- ② 燃料使用量を抑えることができ、**燃料・油脂費を削減!**
- ③ タイヤなどの消耗を減らし、**修繕費を削減!**

II. ドライバーのための、省燃費運転のコツ

ここでは省燃費運転のコツを紹介。日頃から取り組んでいると思いますが、もう一度運転および指導を振り返ってみましょう。“基本的な取り組み”の徹底が、大きな効果につながるのです。

省燃費運転のコツ

- ①無駄なアイドリングはしない
- ②急発進・急加速をしない
- ③無駄な空ぶかしはしない
- ④一定の速度で走行
- ⑤エンジンプレーキを活用
- ⑥スピードは抑える

1 無駄なアイドリングはしない

アイドリング時にも、もちろん燃料を消費します。休憩や荷物の積み降ろしでの駐停車時はエンジンを切り、無駄なアイドリングはやめましょう。

指導のポイント

「燃費の悪化」「騒音などで周囲の迷惑になる」など、無駄なアイドリングによる悪影響を周知。アイドリングストップを心がけるよう指導してください。

2 急発進・急加速をしない

急発進するとエンジン回転が高くなり、通常の発進に比べて燃費が悪くなります。交通の流れに乗り、ゆっくりアクセルを踏むことを心がけましょう。

指導のポイント

シフトアップは回転計のグリーンゾーン内で。アクセルの踏み込み量は、大型車：約80%、中型車：約50%を目安にするよう指導してください。

3 無駄な空ぶかしはしない

空ぶかしは燃料を無駄に消費するだけではありません。騒音や大気汚染の原因にもなるので、空ぶかしはやめましょう。

指導のポイント

空ぶかしは意図的でなくても、“長年のクセでつい”という場合も。空ぶかしによる悪影響を繰り返し指導し、正しい習慣を身につけさせましょう。

4 一定の速度で走行

加減速を繰り返すような運転を「波状運転」といいます。このような走り方は燃費悪化の大きな原因となりますので、定速運転を心がけましょう。

指導のポイント

エンジン回転はグリーンゾーン内で。できるだけ上のギヤを使って走行するよう指導してください。

5 エンジンプレーキを活用

ディーゼル車はエンジンプレーキの状態だと「燃料無噴射状態」になるため、燃料を消費しません。よって省燃費に貢献します。

指導のポイント

エンジンプレーキを使えば燃料を消費しないことを周知。交通状況に合わせて、エンジンプレーキを活用して減速するよう指導してください。

6 スピードは抑える

高速走行は、空気抵抗に打ち勝って走るということ。スピードを出し過ぎれば、それだけ燃費が悪化するとともに、危険性も高まります。

指導のポイント

「交通の円滑な流れを乱すことなく、低いエンジン回転数で効率良く走れる速度での運転」に徹するよう指導してください。

保守・点検でも燃費悪化を防止

◆タイヤの空気圧を適正に

タイヤの空気圧が低いと走行抵抗が増し、その結果、燃費悪化につながります。逆に空気圧が高過ぎると偏摩耗などによってバーストの恐れもあるので、適正な空気圧を保ちましょう。

指導のポイント

日常点検においてタイヤの空気圧を確認するよう指導してください。

◆エアクリーナエレメントの清掃・交換

エアクリーナエレメントが詰まっていると、空気不足で燃焼が悪化し、燃費が悪くなります。目詰まりを知らせるインジケーターが点灯したら、清掃もしくは交換しましょう。車両の年式・車種・エンジン機種によって、メンテナンス時期・方法が異なります。取扱説明書などで確認してください。

資料：公益社団法人 全日本トラック協会「エコドライブ推進マニュアル」
「省エネ運転マニュアル」

III. 省燃費運転を継続した活動にしていくために

省燃費運転活動を継続的に進めていくには、現場で指導にあたる運行管理者やドライバーの理解、協力が不可欠です。そのためにも経営トップが先頭に立ち、取り組む姿勢を示していきましょう。

また、やる気になったスタッフの意欲を維持していくことも重要です。省燃費運転は自社の利益確保だけ

でなく、安全確保や環境保全にも効果をもたらす、社会的意義が大きいことも周知しましょう。

省燃費運転活動は、皆さんの会社でも長く取り組まれていると思いますが、改めて新人からベテランまで、全スタッフで振り返ってみてください。